

食品ロス削減推進計画に基づく施策の令和7年度実施状況等について

1 食品ロス削減推進計画について

(1) 概要

食品ロス削減推進計画は、「食品ロスの削減の推進に関する法律」（令和元年10月施行）及び「広島市食品ロス削減推進条例」（令和5年4月施行）に基づき、本市における食品ロス削減に関する施策を総合的かつ計画的に推進するために策定するもので、「広島市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画」の第8章を食品ロス削減推進計画とし、削減目標を定めるとともに、目標達成に向けた施策を示している。

(2) 削減目標

令和5年度（2023年度）を基準に家庭系については国の削減目標を上回る単年度当たり2.0％の削減を、事業系については国の削減目標と同等の単年度当たり2.0％削減を目指すこととし、計画期間10年間の目標値を設定している。

最終目標年度(令和16年度(2034年度))までに
家庭系食品ロスを9,100t/年以下にする(令和5年度比約20%削減)
事業系食品ロスを7,900t/年以下にする(令和5年度比約20%削減)

(3) 施策展開

本市では、食品ロス削減の推進に関する法律等の施行前の平成18年度(2006年度)から、食品ロス削減の施策を実施し、適宜、内容の充実を図ってきた。今後も施策の充実を図りながら、食品ロス削減に取り組むこととしており、その推進に当たっては、市民・事業者・本市等の多様な主体が連携して取り組んでいくことが重要であることから、次のとおり、協働の取組を軸として、それを補完する普及啓発や推進体制の整備等に取り組む。

- 市民・事業者との協働による食品ロス削減の推進
- 食品ロス発生抑制のための普及啓発等
- 食品廃棄物の再生利用の促進
- 食品ロス削減に向けた推進体制の整備

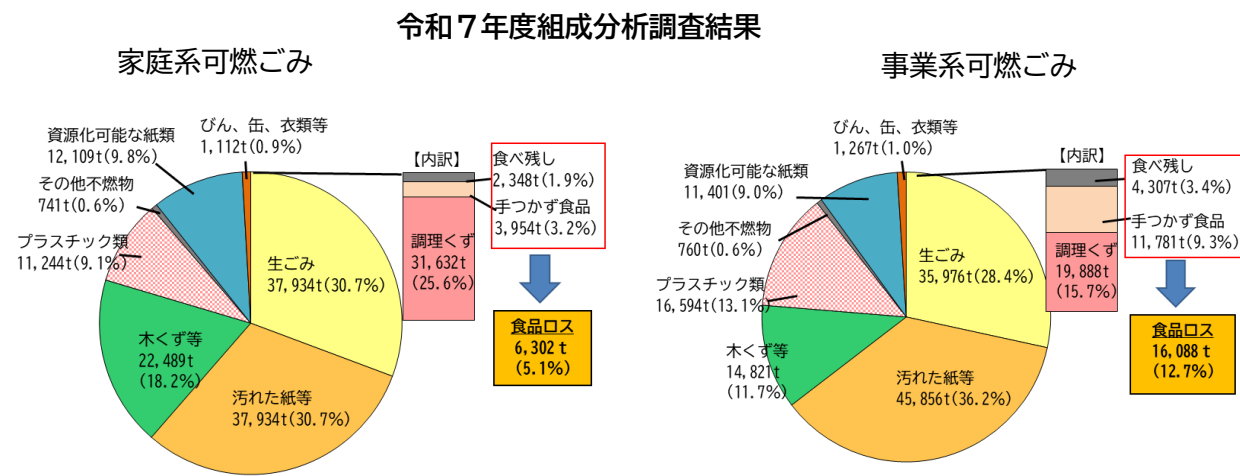
2 実施状況の報告について

広島市食品ロス削減推進条例第7条第6項において、「市長は、毎年、食品ロス削減推進計画に基づく施策の実施状況を広島市廃棄物減量化・資源化等推進審議会及び市議会に報告するとともに、これを公表するものとする。」とされていることから、広島市廃棄物減量化・資源化等推進審議会及び市議会において、食品ロス削減推進計画に基づく施策の実施状況を報告し、公表する。

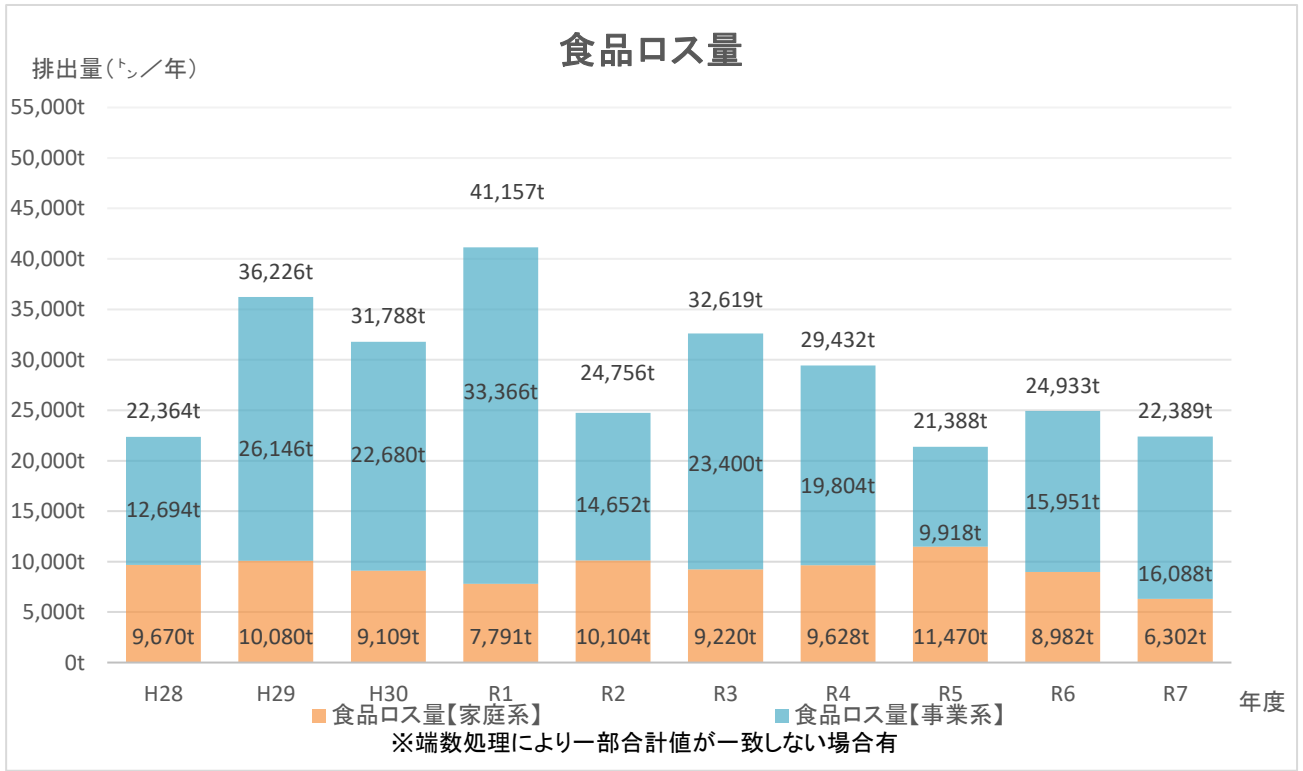
3 食品ロス量

(1) 令和7年度の食品ロス量

家庭系食品ロスの割合は、家庭系可燃ごみ全体の5.1％、生ごみのうちの16.6％となっており、その量は6,302tと推計される。
事業系食品ロスの割合は、事業系可燃ごみ全体の12.7％、生ごみのうちの44.7％となっており、その量は16,088tと推計される。



(2) 食品ロス量の推移（H28～R7年度）



家庭系	直近10年の前半（H28～R2）の食品ロス量の平均値は約9,400t、後半（R3～R7）の平均値は約9,100tであった。→年度ごとのばらつきはあるが、ほぼ横ばい傾向
事業系	直近10年の前半（H28～R2）の食品ロス量の平均値は約22,000tで、後半（R3～R7）の平均値は約17,000tであった。→年度ごとのばらつきはあるが、概ね減少傾向

4 令和7年度の施策の実施状況

(1) 市民・事業者との協働による食品ロス削減の推進

ア 食品関連事業者等の取組に対する支援

■「食品ロス削減協力店」の登録

量り売りや小分け売りなどに取り組む小売店等と、料理の食べきりなどに取り組む飲食店や宿泊施設を「食品ロス削減協力店」として登録し、市ホームページでPRするとともに、ポスターやステッカー、幟旗を配布した。

	令和7年度	令和6年度	対前年度
店舗数	694店舗	681店舗	+13店舗

《今後の方針》

引き続き、協力店制度の周知と参加促進を図るとともに、登録店舗の拡大に取り組む。また、各店舗の取組内容の発信を充実させるなど、市民の利用につながる普及啓発に取り組む。



■「てまえどり運動」の実施

販売期限が過ぎて廃棄される食品が削減されるよう、買ってすぐ食べる場合には、商品棚の手前に並べられている消費期限・賞味期限が近い商品や値引き商品を積極的に選ぶ「てまえどり」を呼び掛ける運動を実施した。

《今後の方針》

「てまえどり」の取組について、引き続き市民にわかりやすく、実践を促す周知・啓発を行うとともに、「てまえどり」を呼び掛ける店舗の拡大を図る。



■「ぶちええね！食べきりキャンペーン」の実施

12～1月の宴会シーズンに「食品ロス削減協力店」に登録している飲食店等と連携し、料理を食べきった利用客に「広島広域都市圏ポイント(としぽ)」を付与するとともに、としぽ取得者の中から抽選で18名に、食品を無駄なく使いきることに役立つ便利な家電をプレゼントする取組「ぶちええね！食べきりキャンペーン」を実施した。



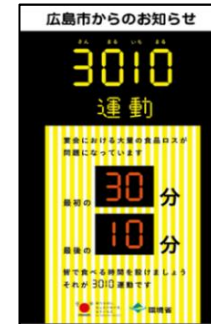
	令和7年度	令和6年度	対前年度
実施店舗	52店舗	62店舗	△10店舗
利用者数	331人	165人	+166人

《今後の方針》

引き続き、飲食店等と連携し、食べきりの必要性を周知するとともに、実践を促す呼び掛けを行うことで、宴会時等における食品ロス削減の定着を図る。

■外出時の食品ロス削減の推進

(ア)「3010(さんまるいちまる)運動」の周知
外出時には食べられる量だけを注文し、料理をおいしく食べきることや、宴会において最初の30分と最後の10分は料理を楽しむことで、食べ残しを減らす「3010運動」(さんまるいちまる運動)について、市ホームページを活用した周知を行った。



(イ)「mottECO(モッテコ)実証事業」への協力

飲食店での食べ残しを自己責任の範囲で持ち帰る活動「mottECO(モッテコ)」の普及に向け、広島県が実施する「mottECO(モッテコ)実証事業」に協力した。

《今後の方針》

「3010運動」や「mottECO」の促進について、引き続き効果的な周知・啓発を行うとともに、飲食店や関係団体と連携し、外出時における食品ロス削減の推進を図る。

■非常変災時等の学校給食における対策の実施

令和7年度は、給食関係事業者等の協力の下、悪天候による休校のおそれがある日の米飯提供を前日までに中止する取組を1件実施したほか、休校により提供できなかったパン・牛乳・副食物資を翌日以降に繰り越して活用することで、食品ロスの削減に取り組んだ。

《今後の方針》

非常変災時等の対策を実施することで食品ロスの削減に努める。

■“ひろしまそだち”地産地消推進事業の実施

広島市内で生産された農林水産物(“ひろしまそだち”産品)の安全・安心の確保を図るとともに、生産者・小売店・飲食店・消費者による地産地消の輪を広げ、食品ロス削減にもつながる地産地消を進めた。

(ア)レシピ動画の作成と情報発信

産品のおいしさや生産者のこだわり等についてレシピ動画を作成し、ホームページやSNSで毎月情報発信を行った。

(イ)協力店を通じたPR

“ひろしまそだち”地産地消協力店を通じた産品PR、旬の産品を使ったレシピを紹介するPOPの作成及び提供を毎月行った。

《今後の方針》

引き続き、農林水産物(“ひろしまそだち”産品)の安全・安心の確保を図るとともに、生産者・小売店・飲食店・消費者による地産地消の輪を広げていく。

■6次産業化サポート事業の実施

6次産業化(農林漁業者が生産・加工・販売等を総合的かつ一体的に展開し、地域資源を活用して新たな付加価値を創出する取組)に取り組む農業者、林業者を支援するため、農林産品の加工品製造研修の実施、パッケージデザインや販路開拓などに係るアドバイザーの派遣等を行った。また、アドバイザー派遣により、自社の農産物を使用した加工品の開発等を支援し、規格外等の農産物の有効活用にも繋げた。

	令和7年度	令和6年度	対前年度
派遣回数	1回	1回	±0回

《今後の方針》

引き続き、農林産品の加工品製造研修の実施、パッケージデザインや販路開拓などに係るアドバイザーの派遣を行っていく。

■優良事例等の勉強会の開催

広島市ごみ減量・リサイクル実行委員会の開催に併せて、食品リサイクル・ループに関する勉強会を開催し、生活協同組合ひろしまによる具体的な取組の事例紹介や委員間での情報交換を行った。

《今後の方針》

引き続き、広島市ごみ減量・リサイクル実行委員会において、優良事例等の情報共有の機会を確保する。

■市ホームページ等による取組事例の紹介

市ホームページ等を活用し、広島市ごみ減量・リサイクル実行委員会の委員が実施しているごみ減量・リサイクルや食品ロス削減に関する取組事例を紹介し、市民へ周知した。

《今後の方針》

引き続き、事業者等の取組事例の紹介を行うとともに、紹介事例の充実を図ることにより、食品関連事業者等の食品ロス削減の取組を支援する。

イ 未利用食品等を提供するための活動の支援等

■フードシェアリングの促進

食品の寄附者と食品を必要とする団体を、インターネットを通じてマッチングする「広島市食品寄附マッチングシステム(ひろしま食マッチ)」を構築した。



《今後の方針》

令和8年度以降は、構築した「広島市食品寄附マッチングシステム(ひろしま食マッチ)」の認知向上と利用促進に取り組み、未利用食品の有効活用を推進する。

■フードドライブの推進

環境をテーマとしたイベントや地域イベント等において、フードドライブ（家庭で余っている缶詰やレトルト食品等を持ち寄り、福祉団体等に寄付する活動）を実施した。

また、事業者が実施するフードドライブについて、市ホームページを通じて周知した。

	令和7年度	令和6年度	対前年度
フードドライブ実施回数	10回	8回	+2回
フードドライブ参加人数	171人	104人	+67人
フードドライブ実績	482個	1,387個	△905個



《今後の方針》

引き続きフードドライブを実施するとともに、事業者が実施するフードドライブについて市ホームページ等を通じて周知を図る。

■フードバンクの取組の支援

食品を取り扱う事業者や各家庭から、余っているまだ食べられる食品を引き取り、必要としている団体や施設等に提供するフードバンク活動を市内で行う団体等の概要について、チラシや市ホームページにより周知を図った。

《今後の方針》

引き続き、フードバンク団体と連携し、継続的な食品寄附の促進につなげる。また、「食品寄附ガイドライン」に基づき、食品寄附活動の意義や寄附する際に求められる寄附食品の適切な管理等に係る情報の周知を行う。



■商品寄贈等による社会福祉貢献活動

企業、広島市社会福祉協議会（以下「市社協」という。）、本市との間で締結した協定に基づき、企業の商品や企業が集めた食品等を、市社協を通じてNPO法人やボランティア団体等の福祉活動団体等に無償提供することにより、福祉活動団体等の支援・育成を通じた福祉活動の促進や生活困窮者等への支援に取り組んでおり、本市は広報等の支援を行った。

(ア) (株) セブンーイレブン・ジャパン

令和4年度に協定を締結し、県内店舗の閉店・改装時の在庫商品を寄贈している。

	令和7年度	令和6年度	対前年度
実施回数	9回	19回	△10回
寄贈数	段ボール 219箱分	段ボール 499箱分	△280箱分

(イ) (株) フジ

令和7年度に協定を締結し、フードドライブで集まった食品及び通常販売が困難となった商品を寄贈している。

	令和7年度
実施回数	18回
寄贈数	237.4kg

《今後の方針》

引き続き広報等の支援を実施する。

ウ 実態調査等

■ごみ組成分析調査

食品ロス削減に向けた取組の効果を検証するとともに、新たな施策の検討材料とするため、一般家庭及び事業所から排出される可燃ごみの組成を調査した。

《今後の方針》

引き続き、調査を実施し、食品ロスの実態を把握することにより、施策の効果検証や、対応策の検討を行う。

■食品関連事業者から排出される食品ロスの調査

広島市産業廃棄物実態調査において、産業廃棄物の排出事業者のうち食料品・医薬品・香料製造業で食品を取り扱っている事業者に対し、食品ロスの発生状況や食品廃棄物の排出抑制・資源化の取組状況などを調査した。

《今後の方針》

調査結果を踏まえ、事業者から排出される食品ロスの削減に効果的な施策を検討する。

(2) 食品ロス発生抑制のための普及啓発等

ア 普及啓発、教育及び学習の振興等

■食品ロス削減に関する取組の普及啓発

(ア)食品ロス削減を含むごみ減量・リサイクルに関するチラシを作成し、町内会等を通じて配布した。

(イ)市内への転入者等に配付しているごみ出しハンドブック「ひろしまエイト」で、食品ロス削減について周知を図った。

《今後の方針》

チラシやハンドブックによる周知を継続するとともに、内容の充実や分かりやすい表現の工夫により理解促進を図る。また、他の広報媒体の活用も検討し、繰り返し情報に触れる機会を創出することで、食品ロス削減に向けた具体的な行動の定着を促進する。

■エシカル消費の普及啓発

一人一人の消費行動が、人や社会、環境に影響を及ぼすことに配慮して、消費者が自主的かつ合理的な消費行動ができるよう、エシカル消費に関する意識を高めるための情報提供や啓発活動等を実施した。

(ア)エシカルマップの内容充実

エシカルマップ登録事業者を追加し、エシカル消費に関連する商品を扱う店舗やエシカル消費に関連する取組について更なる充実を図り、市ホームページ上の特設サイト「広島市エシカルマップ」を更新した。



(イ)平和記念式典での普及啓発

広島平和記念式典の冷水サービスにおいて、エシカル消費に関するポスターを掲示した。

(ウ)広報紙等を活用した啓発

「エシカル消費・グリーン志向消費を知る」として、消費者月間イベントを紹介した。

(エ)広報番組での啓発（「馬場のぶえのひろしま脳トレ」4月13日放送）

「エシカル消費、消費者月間「グリーン志向消費」として、エシカル消費の具体例などを紹介した。

(オ)エシカル消費に関する出前講座を実施

(カ)消費生活情報紙「知っ得なっとく」(No. 221)で広島市エシカルマップを紹介

(※)展示ブース出店

- ・地域イベント「koikoi ふれあい水辺フェスタ」(9月27日)に出展し、エシカル消費の普及啓発活動を実施した。
- ・食品ロス削減イベント「スマイル!ひろしま広場」(10月26日)にて、広島市立広島商業高等学校と連携し、エシカル消費の普及啓発活動を実施した。
- ・みなとフェスタ(3月14日、15日)に出展し、エシカル消費の普及啓発活動を実施した。
- ・広島市立広島商業高等学校が広島アルパーク西棟無印良品2階Open MUJIで実施したポスター発表展示会(1月16日、17日)において、エシカル消費の普及啓発ポスター展示を行った。
- ・「ごみ減らそうデー」店頭キャンペーンに併せて、エシカル消費に関するチラシを配布した。



《今後の方針》

引き続き、市の広報媒体の活用や各種イベントへの出展など、様々な機会を捉えてエシカル消費の普及・啓発を推進するとともに、令和6年度に公開した「広島市エシカルマップ」の内容充実を図り、エシカル消費に関連する商品を取り扱う店舗や取組が身近に存在することについて広く周知する。また、エシカル消費の普及・啓発に関する現状分析を行うとともに、先進自治体の取組事例を調査・研究し、その成果を踏まえた効果的な普及・啓発手法を検討・実施する。

■わ食(和食・輪食・環食)の推進

健全な食生活を実践する市民を増やすため、毎月19日の「わ食の日」を周知するとともに、様々な機会や場面を活用した3つの「わ食(和食・輪食・環食)」に関する啓発活動を行った。

(ア)広報紙への掲載及びデジタルサイネージでの放映

6月の食育月間に、広報ひろしま「市民と市政」やデジタルサイネージを活用し、「わ食の日」及び3つの「わ食」を啓発した。

(イ)SNS等を活用した周知

毎月19日「わ食の日」に合わせて、市公式SNS(X、Facebook、LINEVOOM)に「わ食の日」啓発動画を投稿した。また、前述の媒体に加えて、市公式YouTubeで「和食」や「環食」に関する料理レシピの周知を行った。



(ウ)各種イベント等での広報

「わ食」を啓発するチラシを、食品ロス削減イベント「スマイル!ひろしま広場」等の様々な場面で配布した。

《今後の方針》

引き続き、毎月19日の「わ食の日」を周知するとともに、様々な機会や場面を活用した3つの「わ食(和食・輪食・環食)」に関する啓発活動を行う。

■パネル展示等の実施

食品ロスやSDGs、環境等についての図書展示等を図書館で実施し、食品ロスの削減に向けた実際の行動を促した。

	令和7年度	令和6年度	対前年度
実施回数	14回	21回	△7回

《今後の方針》

引き続き環境月間である6月に、展示内容を「食品ロス」だけでなく「食育」「環境問題」にまで拡げて図書展示を行うとともに、SDGsの取組としても実施する。

■食品ロス削減イベントの開催

食品ロス削減の日(10月30日)付近の休日(10月26日)に、市内中心部において、市民を対象としたイベント「スマイル!ひろしま広場」を開催し、食品ロス削減に関するクイズやパネル展示、フードドライブ等を実施し、約1,500人が参加した。



《今後の方針》

引き続き、本イベントを実施し、中心市街地における効果的な普及啓発を行うとともに、市民が楽しみながら食品ロス削減について理解を深める取組の充実を図る。また、必要に応じてイベント内容の見直しや他の食に関するイベントとの連携を図り、更なる効果向上に努める。

■イベント等への出展

環境をテーマとしたイベント等においてブースを出展し、食品ロス削減等に関するクイズやパネル展示を実施するとともに、フードドライブを実施した。

《今後の方針》

引き続き、市内各地のイベントへ積極的に参加することで、幅広い市民への周知を図り、食品ロス削減に向けた意識醸成及び実践行動の促進に取り組む。

■「ごみ減らそうデー」の実施

毎月1日を「ごみ減らそうデー」とし、年8回スーパーマーケットの店頭でのパネル展示やアンケートの実施等により、買物客に食品ロス削減の取組等と呼びかけた。また、8月にはリサイクル工作教室を同時に開催した。

《今後の方針》

引き続き、「ごみ減らそうデー」の店頭キャンペーンを実施するとともに、開催場所や内容の工夫により、食品ロス削減の効果的な呼び掛けを行う。また、他のイベントとの連携等により普及啓発を強化し、市民の継続的な行動変容を促進する。



■エコクッキング教室等の開催

環境問題に関する公民館学習会として、エコクッキング教室や、食品ロスの講座を実施し、食品ロスの削減や、日々の生活の中でできる取組について学び、身近な環境について考える機会を提供した。



	令和7年度	令和6年度	対前年度
実施回数	22回	20回	+2回
参加人数	340人	303人	+37人

《今後の方針》

引き続き、講座を通して、身近な環境について考える機会を提供していく。また、積極的な広報により開催実績のない地域や公民館等での開催を促進する。

■若い世代を対象としたエコクッキング教室の開催

若い世代が食品ロス削減について考える機会を提供するため、安田女子大学の学生が講師となり、高校生に対して、エコクッキング教室を2回開催した。



《今後の方針》

引き続き、大学等と連携し、エコクッキング教室を開催することにより、若い世代が主体的に食品ロス削減について考え、行動につながる取組を推進する。

■学生と連携したエコクッキングレシピ・動画の作成

(ア)エコクッキングレシピ動画の作成

県立広島大学と広島市立大学の学生がエコクッキングレシピ動画を作成し、市ホームページやYouTubeで公開した。



(イ)エコクッキングレシピの試食

食品ロス削減イベント「スマイル！ひろしま広場」において、安田女子大学の学生が考案したエコクッキングレシピの試食提供を行った。



《今後の方針》

引き続き、多くの市内の学生に食品ロス削減につながるエコクッキングのレシピやレシピ動画の作成に携わってもらい、作成されたレシピや動画を市のYouTubeや市ホームページ等で紹介する。

■環境講座の実施

食品ロスの削減や家庭ごみの分別・減量・リサイクルをテーマにした環境講座を、公民館等で実施した。

	令和7年度	令和6年度	対前年度
実施回数	23回	16回	+7回
参加人数	570人	348人	+222人

《今後の方針》

引き続き、食品ロス削減やごみの分別・減量・リサイクルの必要性、市民が実践できる取組について周知啓発を行う。

■学校における各教科の指導の充実

発達段階に応じて、食品ロスへの理解の醸成やその削減に向け主体的な行動を促すことを目的に、各教科等の学習活動を通じて指導を行った。

○小学校

社会科	社会科副読本「わたしたちの広島」に掲載されている食品ロス削減キャンペーン「スマイル！ひろしま」について調べ、広島市で行われているごみを減らす取組について考える学習活動等を行った。
家庭科	調理実習を行う際、事前に地産地消や食品ロスについて調べて考える学習を行った上で、野菜の皮むきや食べ残しを少なくするための切り方を工夫する学習活動等を行った。

○中学校

社会科	世界の貧困問題について学習する際に、先進国の食品ロスの現状から貧困の起こる理由を考察し、自分に何ができるかを考える学習活動等を行った。
技術・家庭科 (家庭分野)	食生活について学習する際に、食品ロスや食料自給率等の現状について調べた上で、持続可能な食生活のためにどのような工夫をすることができるかを考える学習活動等を行った。

○高等学校

地理歴史科	食料問題について学習する際に、発展途上国の貧困や飢餓、先進国の食品ロス等の食料問題の解決に向けて、各国あるいは国際的にどのような取組をすべきかを考察する学習活動等を行った。
家庭科	食生活について学習する際に、フードマイレージ等の環境に配慮した食生活を実践するとともに、食品ロスや食料自給率等の現状を踏まえ、持続可能な食生活のためにどのような工夫をすることができるかを考える学習活動等を行った。

○独自の取組

広島市立広島商業高等学校が毎年12月に開催しているピースデパートにおいて、エシカル消費の啓発として地域企業と協働で行う地産地消の商品の販売や食品ロスの削減を来場者に提案するなどの取組を行った。

《今後の方針》

学習指導要領に則り、引き続き実施していく。

■食育リーフレットの作成・配付

学校における食育を推進するため、栄養バランスの良い食事や望ましい生活習慣、食文化、地産地消、食品ロスの削減等、小学1年生から中学3年生までの各学年の学習内容に応じたテーマで食育リーフレットを作成し、これを活用した食育の指導を行う。

令和7年度は、全中学校の2年生、3年生及び全小学校の5年生に食品ロスをテーマとしたリーフレットを配付した。

また、リーフレットは保護者向けの内容も掲載しており、家庭への啓発も図った。



	児童・生徒向け	保護者向け
小学校 5年生	学校給食で提供している「ひろしま汁」は、だしで使ったちりめんいりこを汁の実として食べることを例に、食品ロス削減について紹介した。	
中学校 2年生	日本は多くの食料を輸入している一方で食品廃棄も多いこと、また食料自給率や食品ロス削減に着目させ、食品ロスを減らすためにできることを考えるよう促した。	エコクッキングやフードマイレージ（食料の輸送量に輸送距離をかけあわせた指標）について紹介した。
中学校 3年生	地産地消や食品ロス削減について紹介し、環境に配慮した食生活について考えるよう促した。	食材を無駄なく活用する例として、ちりめんいりこでだしをとり、汁の実としてそのまま食べることができるみそ汁など、エコクッキングについて紹介した。

《今後の方針》

引き続き、食育のリーフレットの作成等を実施する。また、さまざまな学年でも食品ロス削減について啓発できるよう、食育だより等を活用して取り組む。

■食農推進事業の実施

市内産・新鮮・安心な“ひろしまそだち”製品の消費拡大に向け、市民が気楽に食農体験できる機会を拡大し、「食」と食を支える「農」に対する理解を深める取組として、食農体験イベントの実施や食農コーディネーターの育成などを行った。

(ア)食農体験イベントの実施

市民を対象とした栽培から収穫、調理・試食までの体験会を実施した。

(イ)食農コーディネーターの育成及び活動支援

食農体験の企画・運営を行うための人材の育成研修を実施するとともに、フォローアップ研修についても実施した。これらに加えて“ひろしまそだち”製品情報の提供等も実施した。

(ロ)農産物栽培展示の実施

野菜や水稻の栽培展示を実施した。

(ハ)「食」と「農」に関する授業の実施

小学校が実施する農作物の栽培等について、市職員や農家を講師として派遣した。

	令和7年度	令和6年度	対前年度
食農体験イベント 実施回数	4回	4回	±0回
食農体験イベント 参加人数	80人	75人	+5人
食農コーディネーター 認定者数	61人	55人	+6人
食農コーディネーター 活動実績（イベント）	163回	138回	+25回
農産物栽培展示	5か所	6か所	△1か所
「食」と「農」に 関する授業	5回	8回	△3回

《今後の方針》

引き続き、「食」と食を支える「農」に対する理解を深めるよう、食農体験イベントの実施や食農コーディネーターの育成を行う。

■食品ロス削減推進サポーターの育成・活用

地域等において食品ロスの削減を担う人材を育成するため、食や環境問題に一定の知見を有した個人や団体の会員向けの講座の受講を関係団体等に呼び掛け、サポーターの育成を推進した。

また、本市との協働を呼び掛け、本市が実施する「ごみ減らそうデー」店頭キャンペーンに参画を得た。

●本市のサポーター登録者数214人

（政令市1位（令和8年2月末時点））

※食品ロス削減サポーター制度は、令和4年度に消費者庁が創設

《今後の方針》

引き続き、食品ロス削減推進サポーターの育成を促進し、関係団体との連携を通じてさらなる人材の確保を図る。
また、「ごみ減らそうデー」等の事業への参画をはじめ、サポーターが地域や職場等で主体的に活動できる機会の拡充を図る。

イ 表彰

■広島市食品ロス削減推進表彰の実施

食品ロスの削減について、優れた取組を実施している3者を表彰し、その取組を幅広く広報した。

受賞者	取組
特定非営利活動法人 環境保全創生委員会	フードバンク活動、規格外サツマイモの保存性向上による安定供給、こども宅食
広島経済大学興動館 祇園から食品ロスなくそうプロジェクト	食品ロス削減啓発イベント、フードドライブ、学生団体と連携した取組
特定非営利活動法人 FOOT&WORK	フードバンク事業「ゆるティ」、地域食堂事業、フードドライブの推進

《今後の方針》

引き続き、食品ロスの削減に顕著な功績がある者を募集し、表彰を行うとともに、その取組等を市ホームページやチラシ等により広く周知を行う。



（３）食品廃棄物の再生利用の促進

■生ごみリサイクル講習会の開催

段ボールを用いて家庭で生ごみを堆肥化する方法を紹介する講習会を公民館で開催した。

	令和7年度	令和6年度	対前年度
実施回数	3回	4回	△1回
参加人数	27人	41人	△14人

《今後の方針》

引き続き、生ごみリサイクル講習会を実施する。また、講習会の周知に努め、これまで開催実績のない地域や公民館等での開催を促進する。



■家庭系廃食用油の回収の促進

民間事業者等が行っている家庭系廃食用油の回収について、回収場所等を市ホームページやチラシを通じて周知した。また、回収に協力する店舗等に対して幟旗の配付などの支援を行った。



《今後の方針》

引き続き、市ホームページやチラシ等による周知を行うとともに、SNS等も活用し、回収場所や実施時期の分かりやすい情報発信を強化する。また、回収協力店舗の拡大に向けた働き掛けや支援を継続する。

■食品リサイクル・ループ形成に向けた支援

野菜の皮や芯、魚のあらなどの調理くずや食品ロスを、肥料や飼料にリサイクルし、その肥料や飼料を使って野菜や魚などを育てる循環型のモデル「食品リサイクル・ループ」の認知度向上に向け、PR用の本市オリジナルのロゴを作成しており、このロゴを使用したポップやチラシを事業者提供した。

また、町内会等を通じて配布するごみ減量啓発チラシにもこの取組を掲載した。

さらに、食品リサイクル・ループを一層推進するため、令和7年度の広島市ごみ減量・リサイクル実行委員会の開催に併せて、食品リサイクル・ループの具体的な取組事例の周知や事業者同士の情報交換の場となる勉強会を開催した。



《今後の方針》

引き続き、食品リサイクル・ループの認知度向上に向け、ロゴや啓発資料の活用促進を図るとともに、事業者や市民に対して分かりやすい情報発信を行う。

■食品リサイクル施設の情報提供

市ホームページに近隣市町の食品リサイクル施設を掲載し、食品関連事業者に周知を図った。

《今後の方針》

引き続き、掲載内容の充実や定期的な更新を行い、事業者にとってより活用しやすい情報提供を行う。

（４）食品ロス削減に向けた推進体制の整備

■広島市食品ロス削減推進部会の開催

令和7年7月1日に「令和7年度第1回広島市食品ロス削減推進部会」を開催し、食品ロス削減推進計画に基づく令和6年度施策の実施状況の報告を行った。

《今後の方針》

引き続き、食品ロス削減推進部会を開催し、食品ロス削減に関する最新の動向や市民・事業者の取組状況を踏まえながら、効果的な施策の推進に向けた審議を行う。

■ごみ減量・リサイクル実行委員会の開催

令和7年5月22日に「第40回広島市ごみ減量・リサイクル実行委員会」を開催し、市民団体、小売事業者、飲食やホテル・旅館業関係団体、本市の取組状況の報告を行うとともに、食品ロス削減キャンペーン「スマイル！ひろしま」を含む令和7年度事業計画を決定した。

《今後の方針》

引き続き、実行委員会内の連携を強化し、事業計画に基づく食品ロス削減キャンペーン「スマイル！ひろしま」などの取組を着実に推進するとともに、参加主体の拡大や効果的な普及啓発に取り組む。